

寺山祐策 yusaku terayama
2008年以降の主な研究・教育・
造形活動・デザインワーク

1 ●研究

2008年度

【在外研修(1年間)】

・「文字」「図像」「書物」など「視覚記号」諸要素の起源、歴史の変遷、それらと環境との関係に関する調査と研究のため武蔵野美術大学在外研修制度により、クロアチアを拠点にヨーロッパに滞在。中東、アメリカ等19カ国を調査。

【講演等(クロアチア)】

・リエカ大学応用美術アカデミー
「writing space design 教育について」

・ザグレブ大学

「日本のデザイン教育について」

【研究教育機関調査】

・ベルリン芸術大学大学院サウンドスタディーズ、FH-D デュッセルドルフ応用科学大学など。

2009年度

【武蔵野美術大学共同研究】

・「杉浦康平デザインの手法とその哲学」(～2011年度)

【造形研究センター】

・「博物図譜デジタル・アーカイブの為のタッチパネル式高精細画像閲覧システムの開発」

2010年度

【訪問教授招聘】

・ホルガー・シュルツェ(ベルリン芸術大学院教授)「サウンド・スタディーズについて」

【博士論文審査】

・芝浦工業大学 工学部建築工学科。

【図書館資料調査】

・「J.ハートフィールドなど近代デザイン資料」J.フレイザー(米国N.Y.デザイン史研究者)の元で調査。

【出版監修】

・「DOCUMENT MAU M&L / L」(武蔵野美術大学・図書館落成記念誌)

【監修・編集】

・図録「博物図譜とデジタルアーカイブ」武蔵野美術大学図書館発行(～2012年「博物図譜とデジタルアーカイブV」まで)

※上記図録：第52回全国カタログ・ポスター展にて経済産業大臣賞を受賞。

【教科書執筆】

・「ウイーン・メソッド、アイソタイプ、国際絵言語—オットー・ノイラートが残したもの」

(「graphic design 視覚伝達デザイン基礎」武蔵野美術大学出版局所収)

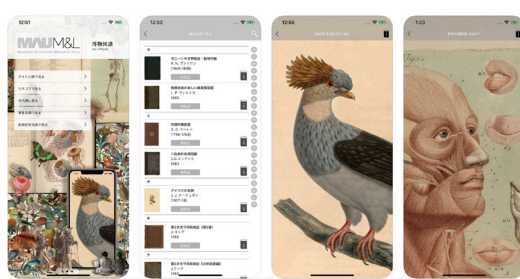
【論稿】

・「画像資料のデジタルアーカイブ化と公開へ向けて」

(図録「博物図譜とデジタルアーカイブ」所収)

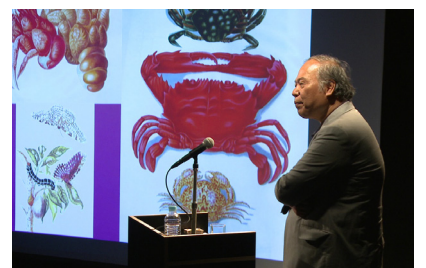
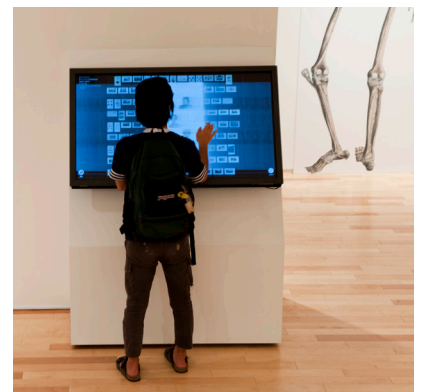


2008～2017 共同研究・展覧会・企画・編集・執筆等「博物図譜とデジタルアーカイブ」20世紀のヴィジュアルコミュニケーションを理解するためには18世紀と19世紀の博物学の世界を知る必要があると考えた。それは視覚を通して世界を知り記述する時代の始まりであり、現代においてはデジタルを使った時空の旅となった。

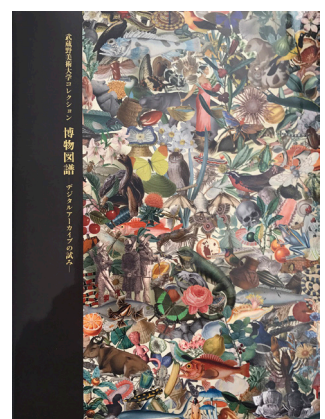


アプリケーション「MAU M&L 博物図譜」iPad/iPhoneを対象に。

本展は「文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の選定を受けて可能となったプロジェクトである。貴重資料のデジタル保存、実物の公開、インタラクティブなタッチパネルの開発、WEB上での公開、図録の再編集の試み(特装本制作)、一般書籍(朝倉書店)の刊行に至るまでがデザインの問題として考察され、全てが新たな挑戦となった。主な共同者*荒俣宏・大田暁雄・谷田幸・河野通義・本庄美千代・藤澤彩里・田中智美・毛利彩乃。



2015年 特装本「博物図譜とデジタルアーカイブ」x(155部限定)制作。



『武蔵野美術大学コレクション 博物図譜-デジタルアーカイブの試み-』朝倉書店刊

2011 年度

【訪問教授招聘】

・J. デイヴィス (アーティスト、ハーバード大学客員研究員)

「バイオ・アートとは何か」

【展覧会参加】

・「国際タイポグラフィビエンナーレ タイポジャンチ 2011」ソウル書芸博物館

【シンポジウム】

・「杉浦康平の脈動するブックデザイン」武蔵野美術大学美術館

・「京都工芸繊維大学美術工芸資料館収蔵資料をめぐって」(京都工芸繊維大学美術工芸資料館開館記念展)

2012 年度

【展覧会共同監修】

・「ムサビのデザインII デザインアーカイブ 50s - 70s」 柏木博、松葉一清、今井良朗、寺山祐策

【シンポジウム・講演】

・「近代デザイン史の水脈 日宣美、ペルソナ展、世界デザイン会議を背景として」 柏木博、田名網敬一、勝井三雄、松葉一清、今井良朗、寺山祐策

・「デザインコレクションとデジタル・アーカイブ」 吉見俊哉 (東京大学大学院情報学環学際情報学府教授)

・「造形研究センターにおける統合データベース、デジタル・アーカイブ構築の試み」 寺山祐策

【展覧会企画】

・「ダイアグラム教育 太田徹也の教育の軌跡/明日を予測する情報のカタチとデザイン」展

【展覧会企画・監修】

・「博物図譜とデジタルアーカイブ V」 (特別監修: 荒俣 宏)

・「近現代のブックデザイン考I 書物にとっての美」 (監修: 新島 実、共同監修: 寺山祐策)

【研究活動】

・アプリケーション「MAU M&L 博物図譜」をリリース iPad/iPhone*

【論稿など】

・「一九二七年の壽岳文章と伊藤長蔵」 (図録「近現代のブックデザイン考I 書物にとっての美」所収)

・「50年代から70年代 マガジンデザインの黄金時代: エディトリアルデザインの成立」 (図録「ムサビのデザイン展II デザインアーカイブ 50s - 70s」所収)



2012 展覧会・企画・執筆「近現代のブックデザイン考I 書物にとっての美」日本語の縦組みにおける組版の美とは何かという問いが本展の動機であった。主な共同者*新島実・白井敬尚・本庄美千代・西村碧・北澤智豊・岩崎友明・中野豪雄



2013 年度

【展覧会企画・監修】

・「タイポグラフィ 2つの潮流」 (監修: 新島 実 共同監修: 寺山祐策、白井敬尚)

※上記: 第7回ゲスナー賞銀賞受賞

【シンポジウム】

・「タイポグラフィ 2つの潮流」 「自国のタイポグラフィと欧文タイポグラフィの関係」

【特別講義】

・「Otto Neurath オットー・ノイラートとその世界: トランスフォームとアイソタイプの起源」 神戸芸術工科大学



2013 展覧会・企画・執筆:「タイポグラフィ 2つの潮流」それまで誰も試みていない、21世紀の視点から20世紀におけるタイポグラフィの二大潮流、モダニズム(近代主義)とアーツアンドクラフツ運動の流れを汲む保守主義を俯瞰し、今日的な意義を再定義する斬新な試みである。主な共同者*新島実・白井敬尚・本庄美千代・河野通義・西村碧・大橋摩耶・朴志勲・正田智子・谷田幸。

【講演】

・「膨大な博物誌とそのデジタルアーカイブの実際」 荒俣宏、寺山祐策 (「進化するミュージアム」JPタワーホール)

【論稿】

・「モダニズムの射程」(図録「タイポグラフィ2つの潮流展」所収)

【出版監修】

・「DOCUMENT MAU M&L/M」(武蔵野美術大学・美術館棟改修記念誌)

【造形研究センター】

・「知能情報処理技術およびデジタルデバイスを活用したデジタル造形アーカイブの高度な資源化とその新たな利活用手法の開発」

2014年度

【学科ポリシー執筆】

・「視覚伝達デザイン学科におけるディプロマ、カリキュラム、アドミッション」

【神戸芸術工科大学共同研究】

・「近代デザイン全般の中でのエディトリアルデザインの成立に関する研究(杉浦康平デザイン研究の継承と展開)」(赤崎正一、戸田ツトム、小山明と共同)

【造形研究センター】

・「日本の古典籍における文字や造本について」 神作研一(国文学研究資料館教授)
・『江戸期草双紙』を中心として」 石川英輔(作家)

・「高速類似画像検索システム：文字認識ソフトの開発」を日立製作所と共同で開始。

【シンポジウム】

・「デザイン教育の未来」SIVA 上海視覚芸術学院

【特別講義】

・「オットー・ノイラートから杉浦康平へ」 神戸芸術工科大学

2015年

【シンポジウム・講演会企画】

・『日中韓共同研究 漢字文化圏タイポグラフィの変遷』

・「中国におけるブックデザインの転換期」 チョウ・ケン(清華大学美術学院教授)

・「知識と情報コミュニケーションの側面から探る朝鮮半島の金属活字と木活字の歴史」 南権熙(東大邱慶北大学教授)

・「近代初期のハングル活字についての研究」 朴志勲(活字研究者)

【造形研究センター】

・「嵯峨本謡本の複製製本制作プロジェクト」がスタート。

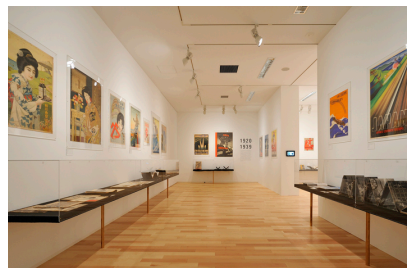
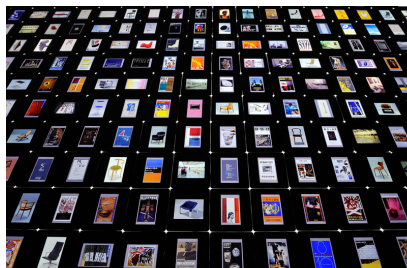
・所蔵調査研究：法政大学能楽研究所／東京藝術大学美術館／国立歴史民俗博物館／京都府立総合博物館

・「古典籍を読む」井上聡(東京大学史料編纂所)

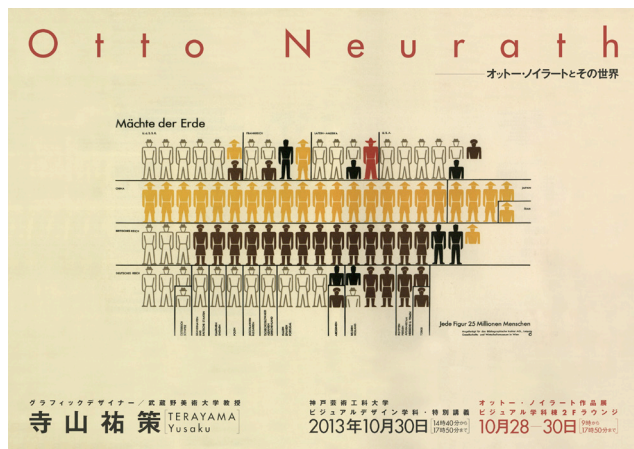
・「高速類似画像検索システム：文字認識ソフトの開発」で「高速類似画像検索技術を用いた文字認識システム」を用い古典籍を読み取るプロジェクト(日立製作所と共同)

【展覧会企画・監修】

・「マリク書店の光芒：ハートフィール

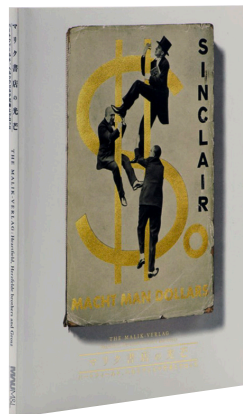
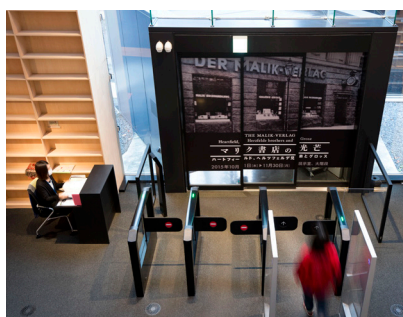
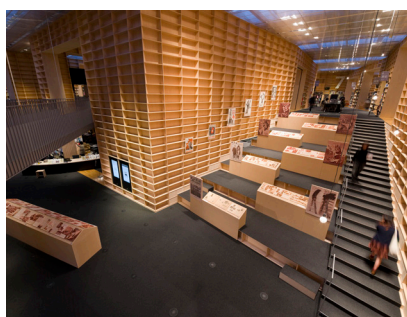


2012 展覧会・企画・執筆：magazine designの絶頂期 1940年代のアメリカから1980年代の日本まで「ムサビのデザインII」

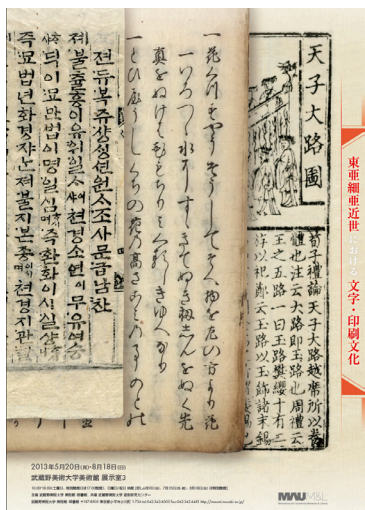


2013 小展示と講義。神戸芸術工科大学にて「オットー・ノイラートとその世界」。

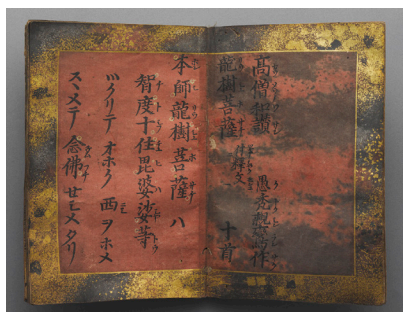
2015 対談「オットー・ノイラートから杉浦康平へ」(杉浦康平先生と神戸芸術工科大学)



2015 展覧会・企画・執筆：「マリク書店の光芒：ハートフィールド、ヘルツフェルデ兄弟とグロス」ダダとフォトモンタージュの記憶。プロパガンダがデザインに及ぼした影響の検証。主な共同者*本庄美千代・沢田雄一・西村碧・早瀬交宣・森田洋生・谷田幸



2014~2018 本展は「文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の選定を受けて可能となったプロジェクト。近世日本の木版印刷による刊本を、造形的視点から再見することにより、「和様刊本」を日本の造本デザイン史に位置づけることを目的としている。また同時に漢字文化圏である中国、朝鮮半島、日本におけるそれぞれの表記、印刷の歴史の基本調査が行われた。



漢字・平仮名・片仮名などの字形をはじめ、料紙・印刷・製本等、造本における造形要素の考察を通して、和語表記による「和様刊本」の多様な造本美の世界を紹介する。漢字カタカナの「和讀」と漢字かなの「讀本」の完全復元を目指す研究と実践が行われた。紙、活字制作、組版、印刷、製本、編集、流通など全ての領域にまたがる研究と検討が必要であった。

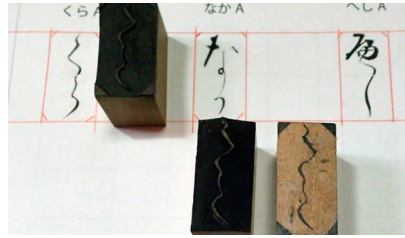
ド、ヘルツフェルデ兄弟とグロッス」

【出版監修】

・「博物図譜とデジタルアーカイブ」特装本（155部限定）制作。

（2016年ドイツ・ライプチヒ、フランクフルト・ブックフェアで展示）

※上記、第49回造本装幀コンクールで「文部科学大臣賞」「日本印刷産業連合会会長賞」受賞。



2016年

【訪問教授招聘】

・スタシス・エイドリゲヴィチウス
ワークショップ「絵と言葉」

【シンポジウム・京都】

・「日中韓共同研究 漢字文化圏タイポグラフィの変遷」南権熙、アン・サンズー、ワン・ミン、マ・クアン、新島実、勝井三雄、寺山祐策他

【造形研究センター】

・「嵯峨本謡本の復元プロジェクト」のための調査：大入、光悦寺、竹笹堂／大和文華館「花鳥下絵謡本 藍そめ川」観世身愛筆写本「伊勢集断簡（石山切）」「新古今集和歌色紙（難波の歌）」本阿弥光悦筆など／大邱（韓国）／円光寺／日本民芸館／龍谷大学図書館

・「謡本講義」宮本圭造（法政大学教授）

・「刊本における写本の〈装い〉一色替わり料紙の整版本について」神作研一



2017年度

【造形研究センター】

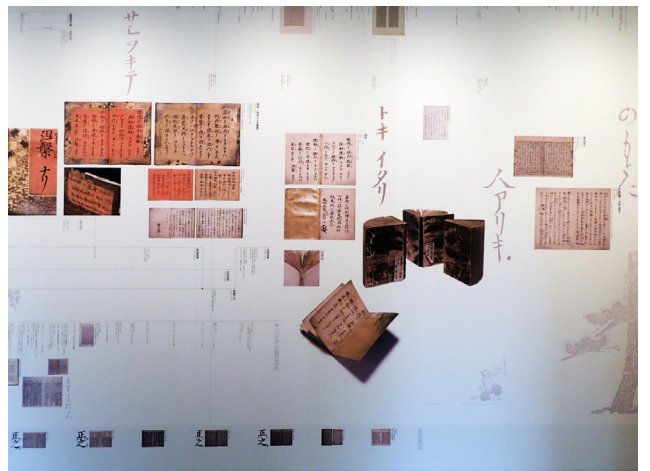
・調査：料紙・木活字調査／富山県城端別院所蔵「色紙和讃」／近八書店にて柳書簡／城端別院「色紙和讃」／越前和紙紙漉き／城端別院「色紙和讃」

・嵯峨本謡本「三井寺」全丁活字分類

【論稿】

・「田中晋の教育の軌跡 デザイン基礎造形からタイポグラフィ教育へ」

（タイポグラフィ教育2 田中晋の教育の軌跡展図録所収）



2018年度

【調査】

・「スタシス」展（2019年度開催予定）のためワルシャワのアトリエ、ポーランド外務省訪問

【造形研究センター】

・調査：法蔵館、大入、竹笹堂／大谷大学／龍谷大学／越前山喜紙漉工房／高岡城端別院善徳寺／白山平泉寺など。

【展覧会企画・監修】

・「和語表記による和様刊本の源流」新島実と共同監修

【開催記念公演】

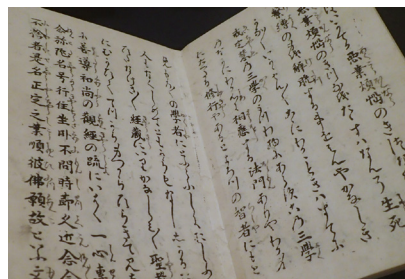
・林宗一郎（観世流能楽師）による能「船弁慶」居囃子「三井寺」上演。

【シンポジウム・講演・対談など】

・「漢字文化圏における文字と造本」・「和様刊本の諸相」・「和様刊本の美を探るⅠ・Ⅱ」・「写本から古活字、その復元」など。

【論稿】

・「和様刊本の源流——言葉が文字に、書が活字になるときの時」



2014～2019 「和語表記による和様刊本の源流」日本人の書いたテキストを最初に印刷した書物とは何か。それは誰がどのように行ったのか？その解明が本プロジェクトの初期動機であった。主な共同者＊新島実・勝井三雄・片塩二郎・神作研一・宮本圭三・大入達雄・本庄美千代・沢田雄一・西村碧・竹中健司・野嶋一生・吉田友子・石垣貴子・渡辺翔・中野豪雄・谷田幸・大田暁雄・工藤哲彦・廣池敦・朴志勲・南権熙 他多数。

・「嵯峨本謡本復元プロジェクト 書から活字へ」

(図録「和語表記による和様刊本の源流」所収)

・「私が新島実について語れること」

(新島実退任展図録「文字言語と視覚言語を遊ぶ」所収)

・「教育の成果を問うということ」

(図録「新島実と卒業生たち—そのデザイン思考と実践 1981-2018」所収)

【出版監修】

『武蔵野美術大学コレクション 博物図譜 - デジタルアーカイブの試み -』

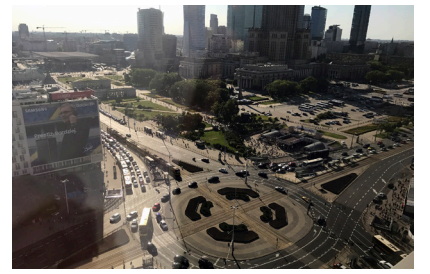
(朝倉書店刊。荒保宏と共同監修)

※第60回全国カタログ展 経済産業大臣賞
／図録部門 金賞

【論稿】

・「特装本『博物図譜とデジタルアーカイブ』の発刊について」

(「博物図譜 武蔵野美術大学コレクション」朝倉書店所収)



2019 年度

【訪問教授招聘】

・スタシス・エイドリゲヴィチウス

【展覧会企画・監修】

・「スタシス・エイドリゲヴィチウス：イメージ——記憶の表象」今井良朗名誉教授と共同監修

【論稿】

・「スタシスの掌」

(展覧会図録 Stasys Eidrigevicius 所収)

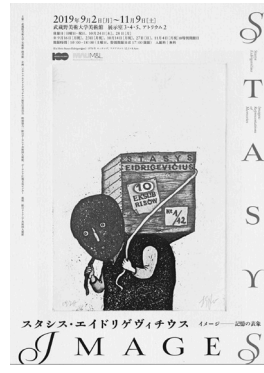
・「伝承へのまなざし—武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科の教育、その形成と実践」

(「視覚の共振 勝井三雄」光村図書所収)

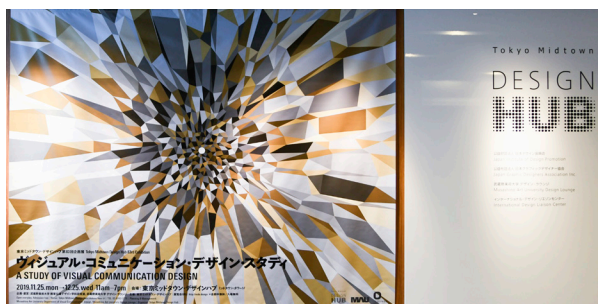
【展覧会企画・監修】

・「ヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン・スタディ A STUDY OF VISUAL COMMUNICATION DESIGN」

(東京ミッドタウン・デザインハブ企画展)



2019 展覧会・訪問教授：「スタシス・エイドリゲヴィチウス イメージ——記憶の表象」事前調査として2018年にワルシャワのアトリエを訪ねた。そこで膨大な初期のテンペラ、銅版画による蔵書票、ドローイングブックが保管されていることがわかりそれによって展覧会の内容は構成された。これまで日本で有名であったグラフィックポスター、絵本に加えてスタシスの本質的な全貌が示された展覧会になった。主な共同者*今井良朗・小野寺玲子・北澤智豊・小林夢実・入江剛史・谷田幸・大村麻紀子



2019 展覧会：「ヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン・スタディ A STUDY OF VISUAL COMMUNICATION DESIGN」

視覚伝達デザイン学科の2002年から2019年までの約18年間の教育を主に卒業制作作品を通して振り返り、デザイン研究の新たな未来を見据える試み。普段目の前の教育に没頭している私たちにとって、とても貴重な機会となった。シンポジウムの参加者をはじめ多くの卒業生たちの全面的な協力によって可能となった。主な共同者*視覚伝達デザイン学科研究室+三上悠里・宇治田枝理・谷田幸・大田暁雄・佐治康生・佐藤祐介・小野田裕士

2◎造形活動・デザインワーク

【展覧会アートディレクション】

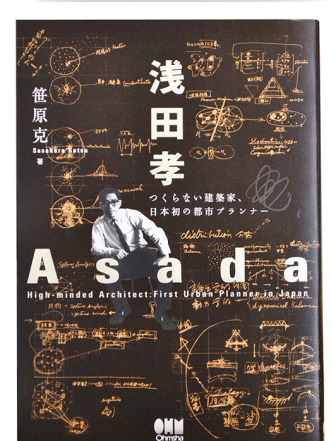
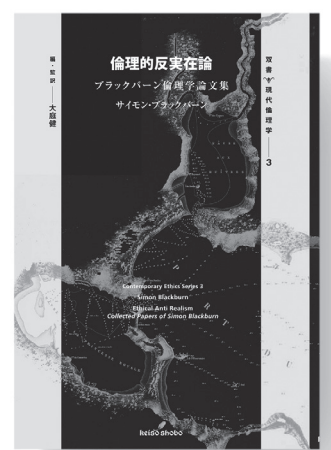
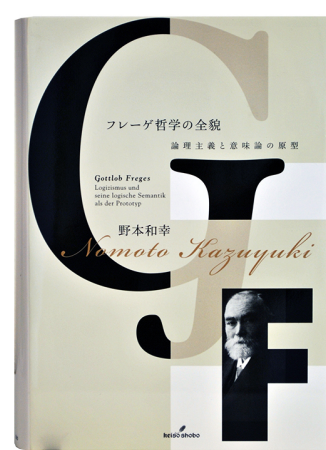
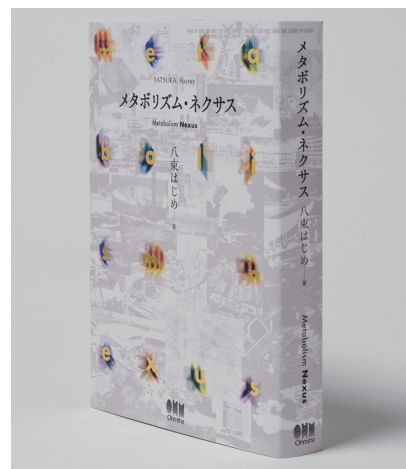
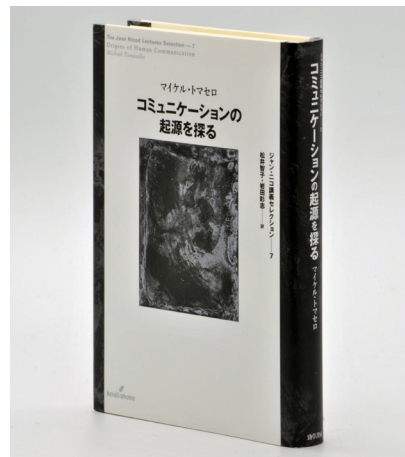
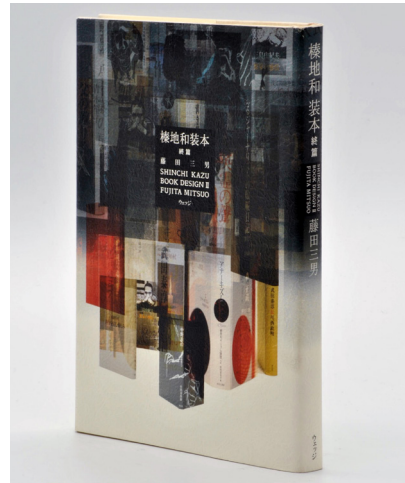
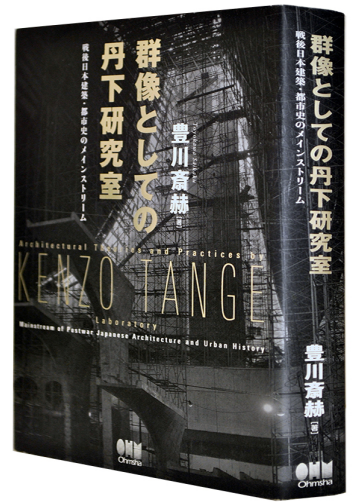
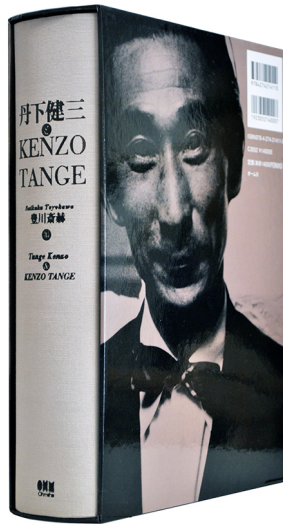
- ・「アントニン・レーモンド建築と暮らしの手作りモダン」展／神奈川県立近代美術館 2007年度
- ・「DOCOMOMO JAPAN150 未来への遺産 Future and Legacy」展ポスター、カタログ 2011年度
- ・「柳澤紀子展－転生の渚－ Yanagisawa Noriko Exhibition - Re-Birth along the Water's Edge -」展（浜松市美術館）図録編集、デザイン 2012年

【ポスターデザイン】

- ・「夏目漱石とクラシック音楽」夏目漱石生誕150年記念 東京文化会館大ホール 2017年度

【造本装釘】

- ・「榛知和 装本 終篇」藤田三男（ウエッジ）2009年度
- ・『メタボリズム・ネクサス』八束はじめ（オーム社）2011年度
- ・『フレイグ哲学の全貌——論理主義と意味論の原型』野本和幸（勤草書房）2012年
- ・『群像としての丹下研究室—戦後日本建築・都市史のメインストリーム』豊川斎赫（オーム社）2012年
- ・「進化の弟子 ヒトは学んで人になった」K・ステレルニー（勤草書房）2013年
- ・『实在論と知識の自然化：自然種の一般理論とその応用』植原享（勤草書房）2013年
- ・『浅田孝—つくりださない建築家、日本初の都市プランナー』笹原克（オーム社）2014年
- ・「コミュニケーションの起源を探る」マイケル・トマセロ（勤草書房）2013年
- ・『シリーズ新・心の哲学I・II・III』（勤草書房）2014年
- ・『丹下健三とKENZO TANGE』豊川斎赫 編著（オーム社）2015年
- ・『グリム童話のメタファー』野口芳子（勤草書房）2016年
- ・『平等主義の哲学——ロールズから健康の分配まで』広瀬巖（勤草書房）2016年
- ・『パラダイム論を超えて——科学技術進化論の構築』中山康雄（勤草書房）2016年
- ・『社会的事実の数理——デュルケーム、モース、レヴィ=ストロース』落合仁司（勤草書房）2016年
- ・山崎正和『山崎正和全戯曲』（河出書房新社）2016年
- ・「フィクションの哲学」清塚邦彦（勤草書房）2017年
- ・『倫理的現実論：ブラックバーン倫理学論文集』S・ブラックバーン（勤草書房）2017年



3 ●教育

*以下教育成果の一部：2009年度以降の学部担当ゼミ学生による卒業制作（優秀賞、原弘賞、勝井三雄賞受賞作品など）

【デザイン教育について】

大学とは、学生個々の持つ豊かな感性を育てると同時に歴史を学び、自分の足元から社会や人間をみつめ、コミュニケーションとデザインとは何かについて自分で考え、行動できる人間を育てる場所ではないかと考える。故に教育の現場は既存のデザインの再生産の場所ではなく、教員と学生が常に「今と社会」に対峙して、デザインとは何か絶えず問われるアヴァンギャルドな研究の場所であり、そのことを通して常に新しいデザイン（コミュニケーション）の思想とかたちが模索される実験場でありたいと思う。

【博士論文（主査担当）】

2019年度

宋侑珉

「視覚伝達デザインにおける新たな造形基礎教育の方法論研究 - C. S. パースによるセミオシスのデザイン教育への展開 -」

【博士論文（副査担当）】

2014年度

築地 正明

「映像と身体—写真、映画に関する考察」

2016年度

ベンヤミン・フィツェンライター

「歌舞伎のセリ上げにおける表現を巡って - 「けいせい天羽衣」のセリ上げの復元と視覚言語的分析 -」

2018年度

黄啓帆

「ダイアグラムの環境色彩ワークショップへの応用 - 知覚の関係性をもとに -」

【修士論文・制作指導（主査担当）】

2009年度

藤澤 彩里

「私的書物論 本のかたちをを考える」

2010年度

秋山 貴典

「マグリット分析」

野澤 光

「記憶と技術はいかに再発明し合ってきたか」

2013年度

宇治田 枝理

「セミオティックプロセスによる音経験記述」

ステラ ダリア タンジュング

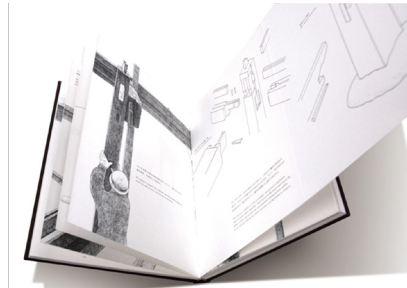
「理解するためのデザイン研究 - インドネシアにおける記述の歴史 -」

イヒヤナ

「非言語コミュニケーションを含めた言葉の表現」

楊喩晴 (ヨウ ユセイ)

「視覚記号に向けて情報の視覚化形成の考察 - アイソタイプに基づいた視覚形態の分析 -」



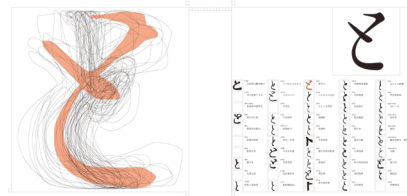
「合掌造りの家ができるまで」
山田和美 2009年度



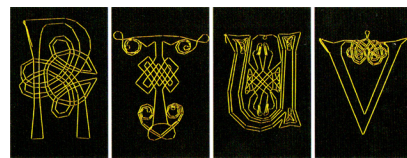
「CODE MESSAGE —暗号から見たコミュニケーションとその歴史」
鈴木麻実 2010年度



「自然色採集」 鈴木陽香 2011年度



「古活字仮名の形態研究」 廣澤梓
2012年度



「編む —天使のタイポグラフィをたどって—」 早川知子 2012年度



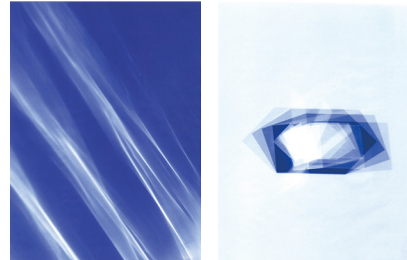
「Invisible range」 伊藤迅一 2014年度



「物語を映す不思議なグラス」
北爪更 2014年度



「書物の思考」 毛利彩乃 2009年度



「漠し光」 江南仁美 2010年度



「Typographic of Cubism」
大崎奏矢 2011年度



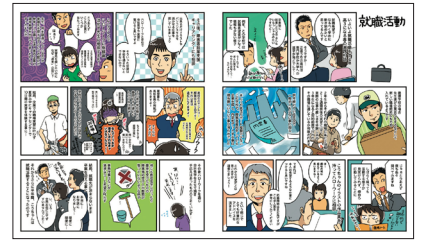
「遊糸」 黒川萌 2012年度



「holy shadow —イスラム・幾何学模様の再構築」 西村早貴 2012年度



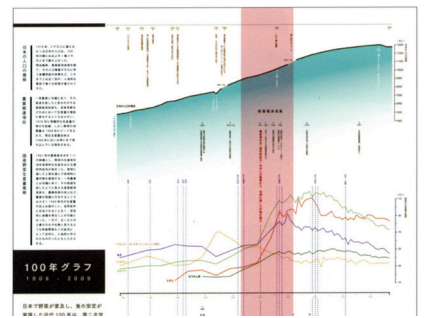
「TISSUECREAM and EGYPT TRAVELOGU」
岩坪理央 2014年度



「自閉症って？ —我が家のこうちゃん—」
阿部晴果 2009年度



「The Nonesuch Studies」
長尾周平 2010年度



「Energy of vegetables 野菜の変容」
住吉あゆみ 2011年度



「SNOW Decoding The Letters Sent from Heaven」 藤田すずか 2012年度



TSUGIMOJI
渡邊佳代子 2013年度



「日本湯屋物語—守貞漫稿から読み解く江戸銭湯事情—」 團之原万葉 2014年度

2014 年度

苗雨竜 (ミョウウリュウ)

「文化交流史の視点から見る中国のブックデザインの変遷:1840～1937」



「デジタルブック伊勢物語 ～本阿弥光悦にふれる～」 北村真理 2014 年度

2015 年度

徐維廷 (ジヨイテイ Hsu Wei Tin)

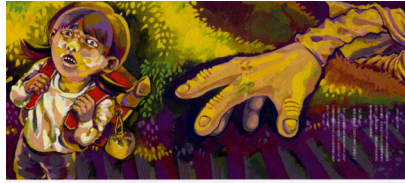
「肉体を超えて 一東アジア身体図像の歴史的考察一」

中島 智哉

「人々に愛された文学「新曲浦島」と、伝達されなかった戯曲「新曲浦島」

張伊ブン

「触・書・籍～感覚体験に基づく新たな書籍の可能性～」



「河童人考察」

三井瑛乃 2015 年度卒業制作

2016 年度

友田 菜月

「人、人 ピカソのキュビズム絵画の研究とそれを応用した制作」

魯晴 (ロセイ)

「湿板写真における未知化の視覚実験」

藤田 吏穂

「自然色採集と色の相互作用」



2017 年度

龔礼 (キョウレイ Gong Li)

「時空間可視化の考察 一宇宙における円型ダイアグラムの時空軸を中心に」

初雯蓓 (ショブンバイ Chu Wenbei)

「刺・青」

2018 年度

汪洋 (オウヨウ Yang Wang)

「伝統工芸を活かすデザインの研究 一硯を中心に」

杭天宇 (コウテンウ Tianyu Hang)

「折りの意味 一太古真法に基づいて折符の探求」

湯為 (トウイ Wei Tang)

「中国の手帳現象における、作り手と使い手の交流」

馬笑宇 (マシヨウウ Xiaoyu Ma)

「ブラウン」を通じて、平面において運動視覚と運動空間の再考」

田中 智

「写真の魅力 一私を魅了する写真の対象」

「zoological garden 動物観の変遷を辿る」

和久津桃子 2016 年度



「日本のかみ」 山市彩 2017 年度



「書店漫画を通して見る エンタメと非エンタメ」 寺町美代子 2017 年度

2019 年度

王ショウ (オウショウ)

「嗅覚から考えるビジュアルコミュニケーションデザイン」

小林 響子

「現代キャラクター潮流への仏教布置の試み」

田中 崇

「ブラッドベリー・トンプソンの編集とデザイン」

譚林宣 (タンリンセン)

「地方のコミュニティのアイデンティティを確立する研究——方言の〈見える化〉インナープロモーション」

楊可一 (ヨウカイチ)

「Elephant Talk —— 魯迅のデザイン作品における視覚言語の探求とリデザイン」

李卓 (リタク)

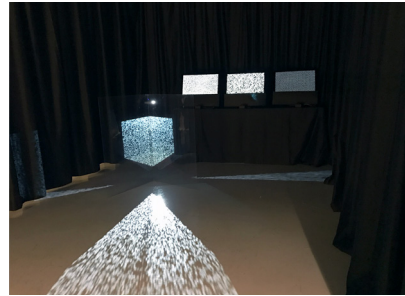
「中国伝統医学における視覚イメージの研究——中医図像から見る視覚化の世界」



「十二仕掛」 齋藤優太 2019 年度



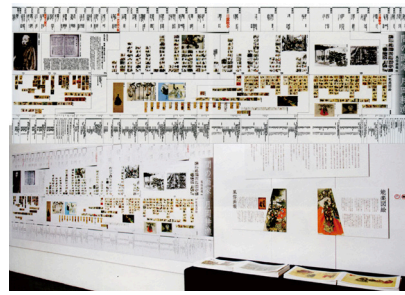
「うつろいゆく藍」 脇有香里 2015 年度



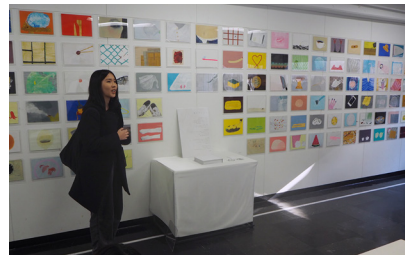
「眼とモルフェー」 濱元拓 2017 年度



「水仙月の四日」 茂木美桜 2017 年度



「間の画家 月岡耕漁」 國本 菫 2017 年度



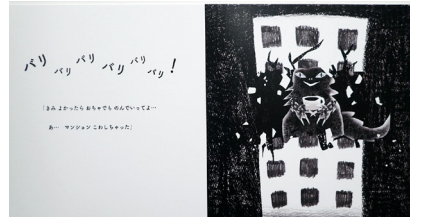
「Life」 矢嶋瑛美 2018 年度



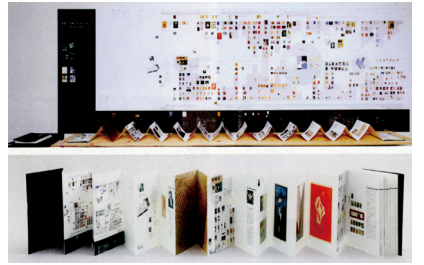
絵本「星の王子さま」 島袋彩 2018 年度



「Words Are Chameleons 言葉の印象が変化する理由」 柳田真優 2019 年度



「かたちの絵本」 高橋里奈 2016 年度



「理想の書物が生まれるまで ～恩地孝一郎と出版創作～」 丸山太央 2016 年度



「私と世界を繋ぐ山羊達、生きた吉祥の印」 畑沙織 2017 年度



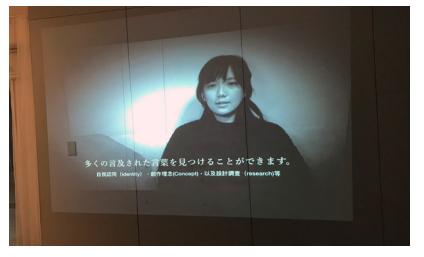
「時をかける少女 - 言葉とイメージ -」 栗原優基 2018 年度



映画『ふれながら』 林賢五 2018 年度



「さかもとちひろ」 坂本千尋 2019 年度



「昼間映画館 私と彼の台北 台湾価値とアイデンティティを訪ねる旅へ」 リン・ズーチー 2019 年度